

〔三〕明治前書目

『大日本史料』第一編之二十一に記載してある書物及び私が目にしたもの合計六九点。但しこの中には『医心方』の各種写本及び安政刊本は含まない。

真柳 誠

まとめ

〔一〕一八六点のうち伝来・書誌学的研究・和・丹両家の家系・人物紹介等がもつとも多い。中国文五点・英文二点がある。

年代的にみると、昭和四十年代には房内篇の解説本が集中的に刊行された。昭和五十年代になると東洋医学の再評価に伴って、『医心方』の訓読・解釈が行われるようになった。とくに一千年記念事業の行われた昭和五十九年（二六六点）および昭和六十年（三五五点）がもつとも多く、その研究内容も多様化してきた。その結果、『医心方』は中国古医書の丸写しにすぎないという従来の定説をうちやぶり、わが国情・風土に適した医書としての独自性が評価されてきた。さらに一千年にわたる伝写の系統も解明されてきた。

（京都医学史研究所）

『本草色葉抄』所引の医学文献

『本草色葉抄』は惟宗具俊が弘安七年（一二八四年）に撰述した、鎌倉時代を代表する本草書である。本書の伝本は少ないが、内閣文庫所蔵の室町中期写本が石原明氏らの解題を付し、昭和四十三年に同文庫より影印出版されて利用可能となった。

本書は『大観本草』（一一〇八年初刊）中に見える薬名の記載巻次の検索を主目的とした、一種の本草辞典である。またそれ以外の薬名についても、本書に先行する『本草和名』（九一八年頃成）から数多く転録する他、独自に各種漢籍より引用している。それらの大多数には出典も記されており、文献名は転録も含め全体で約一四〇種に上る。

ところで鎌倉時代に伝存、あるいは新たに伝来していた医書を把握しうる史料は少ない。しかし本書の所引文献を解析するならば、当時の情況に光を当てることが可能であ

る。石原明氏の解題もこれに言及するが、わずか三三種（うち医書は二一種）の漢籍を列挙するのみで、誤認も少なくない。そこで演者は内閣文庫刊本を底本に、本書の全引用書名索引を作成したので、以下に簡報する。

書名上に●を付したのは『大観本草』以降に成立、あるいは『大観本草』や『本草和名』からの間接引用と認められない医薬文献。○を付したのは『本草和名』が引用している文献である。書名下の（ ）内には記載回数を書き記し、書名等の明瞭な省略は相応に補足し一括して計上した。また明らかな誤写および俗字・異体字なども、正字・当用漢字に改めた。

- [イ]・易簡方(四) ・医説(七) 異物志(二) 医方(一)
[オ] 音義(一)
[カ] ・郭璞注(二) ・葛氏方(二) ・家藏方(一) ・家伝衛濟宝書(四) ・漢武王内伝(三) 簡要濟衆方(一) 月令(一)
[キ] 岐伯(一) ・耆婆方(五) ・究源方(一) ・玉

篇(三) 今案(五) 今注(二)

[ケ] 經驗方(二) 荊州記(一) 荊楚歲時記(一) 經

注(一) ・外科精要(一) 外台秘要方(九)

・玄感伝屍方(三) ・兼名苑(四〇三)

[コ] ・広志(一七) ・広雅(六) ・広利方(一)

・五金粉薬訣(七) ・古今注(四一) 吳氏(二)

・吳録(一)

[サ] ・崔禹(七〇) ・濟生方(四) ・雜要訣(八二)

左伝(二) ・三因方(二二) ・刪繁論(三)

[シ] 詩(五) ・爾雅(六七) 史記(一) ・七卷食經

(二一) ・積薬性(二四五) 煮石經(一) 周礼

(二一) ・食經(四) 食医心鏡(二) ・集驗方(二)

・十便方(一) ・傷寒論(一) ・小品方抄義(二)

・小品方(二〇) 商方(一) 上林賦(一) 蜀本

(四) 神驗方(二) ・神仙服餌方(五二) ・神農

食經(一) 神農五穀本草図方(二) ・新方(一)

[ス] 図經(三八)

[セ] 説文(四) 山海經(四) ・千金方(二四) 千金

翼方(一) 聖恵方(三) 仙經(三) ・仙方(五)

● 錢氏小兒方 (三)

[ソ]。蘇敬 (九) 蘇恭 (三) 。莊子 (三) 楚調 (二)

。疏文 (三九) 蘇沈良方 (六) 素問 (一)

[タ]。大清經 (九三) 太清草木方 (二) 太平御覽 (二)

太平広記 (二) 。丹口訣 (二七) 。丹秘口訣 (二)

。丹藥訣 (二) 。丹方 (二) 。丹家 (二)

[チ] 張鼎食療本草 (一) 陳藏器 (三二)

[テ] 天寶方 (一)

[ト]。陶弘景 (一二二) 。陶隱居 (三) 道濟醫方 (一)

東坡文集 (一) 唐本 (六四) 斗門方 (七)

[ナ] 南越志 (二) 南州記 (一) 南楚 (一) 南都賦 (一)

[ニ] 日華子 (一) 如意方 (六)

[ハ] 梅師方 (一) 博聞錄 (二) 。博物志 (二) 。波

羅門方 (三) 。范汪方 (一九)

[ヒ] 備急方 (二) ● 百一選方 (三二)

[ヘ] 別説 (三) 別本 (一)

[ホ] 方言 (二) 宝蔵論 (四) 。抱朴子 (三) 。墨子

五行記 (一九) 法華經 (一) 。本經 (五) ● 本

事方 (一四) ● 本事方後集 (二) ● 本草衍義

(七二) 。本草稽疑 (一八) 。本草拾遺 (一八)

。本草和名 (一)

[モ]。孟詵 (三) 毛伝 (二)

[ヤ]。藥訣 (三六) 。藥対 (一) 藥図 (一) 藥性論

(二) 藥石弁正論 (二)

[ミ]。養生要集 (一一)

[リ]。礼記 (四) 雷公 (一〇〇)

[ロ]。陸機 (二) 李邕方 (一) 龍門方 (一)

[レ]。靈奇奧秘術 (六) 嶺表錄異 (一)

[ハ]。録驗方 (七) 呂氏春秋 (一)

[ワ] 和香方 (一) ● 和剂局方 (二二)

(北里研究所附屬東洋医学総合研究所・医史文献研究室)